

3. 「市立幼稚園・保育所のあり方基本方針」の素案をゼロベースで見直すことについて

- ① 「ゼロベースで見直す」という判断に至った経緯について
- ② 膨大な時間と労力を掛けて行われてきた「富田林市立幼稚園・保育所あり方検討委員会」や「幼保のあり方PT」での議論等について、どのように考えているのか
- ③ どのようなスケジュールで、どのような方向性で見直すのか
- ④ 市立幼稚園での3歳児の受け入れや預かり保育等の段階的实施に対して期待していた市民には、どのように説明するつもりなのか
- ⑤ 幼児教育の無償化を控えている中、「市立幼稚園・保育所のあり方基本方針」の策定を先送りすることで想定される問題について、どのように考えているのか

**【答弁】**

3. 「市立幼稚園・保育所のあり方基本方針」の素案をゼロベースで見直すことについての、①から⑤につきまして順次お答えいたします。

まず①につきましては、素案のパブリックコメントにて、提出数606通で1,200件以上のご意見を頂戴しました。様々なご意見を頂戴する中で、園児が減少する状況で園を集約することは理解できるとのご意見もありましたが、最も多いご意見は、廃園の考えをお示ししている4園の存続を求めるとのご意見でございます。

また、素案の中で廃止の考えをお示ししている4園の地域から最終集計で、1万8千649筆におよぶ廃園反対の署名を受理しており、各地域での説明会におきましても、「廃園反対」、「まずは3年保育と預かり時間延長を」というご意見を多く頂戴いたしました。さらに、昨年12月議会におきまして、「富田林市立

幼稚園・保育所のあり方基本方針（素案）における市立新堂幼稚園の廃園に反対する請願書」及び「富田林市立幼稚園（伏山台・川西・彼方）の3園の廃園に反対する請願書」が賛成多数で採択されました。

これら市民の方や議会のご意見を踏まえまして、市の新しい体制のもと、富田林市立幼稚園・保育所のあり方基本方針の素案につきましては、ゼロベースで見直すことといたしました。

次に、②につきましては、議員ご指摘のとおり、検討委員会やプロジェクトチームでかなりの時間を掛けて議論してまいりました。これまで様々な角度から市立幼稚園の再配置について議論してきたことにつきましては、今後、新たな案をお示しするにあたり必要であったと考えております。

次に、③につきましては、具体的なスケジュールと方向性は、現時点では明確にお示しすることが出来ませんが、市立幼稚園における課題解決のため、できるだけ早い時期に新たな案をお示ししたいと考えております。

続いて、④につきましては、全ての地域での説明会において、あくまで素案であり、決定されたものではない旨お伝えしてまいりました。しかしながら、素案でお示しした3歳児の受け入れや預かり保育等への期待を大きくお持ちであることも認識しております。素案の見直しに際しましては改めて、各幼稚園で説明会を開くなど、丁寧にご説明してまいりたいと考えております。またその際には、新案の構築に向けて保護者、地域の皆様のご意見を伺いたいと考えています。

最後に、⑤につきましては、今年10月から施行されます、3歳以上児の幼児教育の無償化に伴い、3歳から私立幼稚園を希望される保護者が増えることが予想されます。市立幼稚園につきましては、厳しい状況が進むと見込まれることから、できるだけ早い時期に新たな案をお示ししたいと考えております。